

# ACT!

 **MEDECINS SANS FRONTIERES**  
国境なき医師団

  
1999年  
ノーベル平和賞受賞

支援者さまと国境なき医師団(MSF)をつなぐニュースレター

2026年4月号



大きな水がめに飲料水をためる女性。女性が暮らすロヒンギャ難民キャンプで人びとの健康を守るために、MSFは井戸の設置や修理などの支援も行っている。(バングラデシュ)

# 命を救う安全な水 を人びとへ

紛争地でも、自然災害の被災地でも、  
国境なき医師団(MSF)は必ず「安全な水」の確保を行います。  
でも、一体なぜ? 「医療」との関係は? そもそも「安全な水」とは?  
今号はMSFの「水の支援」について解説します。

# 国境なき医師団の安全な水を提供するための活動とは？

「あれは、畑から帰る途中で  
あった。突然、ひどい下痢  
になったんです。通りが  
かった人たちがお金を出し合い、  
バイクで国境なき医師団 (MSF)  
のコレラ治療センターまで連れて  
行ってくれました。1時間ほどの  
道中、ずっと下痢おうとと嘔吐が止まら  
ず、つらかったです」

コレラの症状が出た時の様子を  
話すのは、コンゴ民主共和国 (以下、  
コンゴ) 南キブ州の農家、ザワディ・  
カハンバリさん。「私の村では川の  
水を飲んでいますが、塩素消毒は  
されていません。近所でもコレラ  
にかかった人が何人もいます」

コレラはコレラ菌に汚染された  
水や食物を口にすることで広がる、  
極めて感染力の強い感染症です。  
ザワディさんのように水インフラ  
がない地域に住む人は、川や湖沼  
の水に頼らざるを得ません。しか  
し、こうした水源には泥や動物の  
糞尿が混じり、病原菌や寄生虫が  
含まれていることが少なくありま  
せん。汚染された水の使用には、  
コレラや赤痢、E型肝炎※1など特  
に幼い子どもや妊産婦にとっては  
命取りになる感染症にかかるリス  
クがあるのです。



MSFのコレラ治療センターで療養するザワディさん。  
© Abdon MANENGU Mbangala/MSF

MSFはコンゴ各地でコレラ流行  
への対応を強化し、2025年に16件  
の緊急介入を実施。2万2000人  
以上にワクチンを接種しました。

## MSFが水の支援に 力を入れる理由

MSFの現場を統括する現地活動  
責任者おちあいあつひこを幾度も務めた落合厚彦は、  
次のように語ります。

「紛争や自然災害の影響で、命を  
守るために着の身着のままで逃れ  
てくる人びとがいます。MSFはそ  
のような人びとの元にいち早く駆  
けつけ、医療・人道援  
助活動を開始しますが、  
ニーズを把握するため



© MSF  
落合厚彦

に、まず状況を確認します。『安全  
な水の確保』は、『人びとの栄養状  
態』『ワクチン接種の有無』『病気の  
有無』などと並び、最初に確認す  
る重要事項の一つです。それは、  
水がなければ、人は生きていけな  
いからです」

危機にある人びとのために、最



家族のために、MSFの給水所から得た水運ぶ  
難民キャンプに暮らす母親。水を手当てしてほっ  
としたからか、笑みがこぼれた。(チャド)

低限必要とされている水の量は、  
1日1人当たり約20リットル※2。  
これらは、飲料水や調理、体の洗  
浄などに利用されます。

また、医療活動においても安全  
な水が必要とされます。MSFの病  
院では、医療器具の滅菌や手洗い、  
感染を防ぐための清掃などのほか、

患者さんの食事や赤ちゃんのミル  
クの準備にも不可欠です。

「MSFは医療・人道援助団体です  
が、安全な水を確保・提供するこ  
とで、結果的に多くの人びとを病  
気から未然に救っているのです」  
と、落合は強調します。

## 井戸の掘削や 海水の淡水化支援も

川や湖を浄水施設の水源とし、  
沈殿物を除去し、塩素処理をした  
安全な水は、給水車などで人びと  
に供給されます。適切な水源がな  
い場合は井戸を作り、水をくみ上  
げます。

2023年4月にスーダンで始まっ  
た内戦は、世界最大の避難民危機  
を引き起こし、およそ1200万人の  
人びとが家を追われています※2。  
MSFは内戦後発直後から、スー  
ダンと国境を接するチャドの難民  
キャンプで、逃れてきた人びとへ  
の緊急援助を開始。けがの治療を  
行ったほか、井戸を掘り、パイプ  
を使用した給水システムを構築し  
ました。2025年6月時点で1日当

たり6万リットルの給水活動を行  
っており、増え続ける難民の人び  
とに安全な水を届けています。

パレスチナ・ガザ地区では、海  
水の淡水化支援も行いました。ガ  
ザには飲用できる安全な天然水が  
ないことから、イスラエルからの  
給水か、海水の淡水化が必要で  
す。しかし攻撃で水インフラ施設が破  
壊され、安全な水が不足。疥癬かいせん  
などの皮膚疾患や下痢のまん延に  
つながっています。



人びとのために懸命な給水活動が続いた。(ガザ=  
2024年)

MSFは海水を淡水化し、給水車  
などで水の人びとに提供してきま  
したが、2025年はイスラエルから  
の搬入規制が続き、輸送のための  
燃料や給水拠点が不足しました。  
そんな中、新しい水処理施設を導  
入する努力を続けました。

水は命。安全な水のない暮らし  
は、人びとの健康と命を奪いかね  
ません。MSFはこれからも水の支  
援に取り組んでいきます。

## column

### 利用者の声

## 「井戸は 素晴らしい贈り物」

モザンビーク北部のモゴヴォラ  
ス地区には、住血吸虫症に感染す  
る人が多くいます。この病気は、住

血吸虫という寄生虫が住む川や湖  
に入ったりその水を飲んだりするこ  
とで感染し、放置すると肝臓や腎  
臓に損傷を引き起こす恐ろしい感  
染症です。

MSFは地域住民との協議を経て、  
この地域に深さ7メートルの井戸  
を6基設置しました。井戸に水を

くみに来たラビアさん (右)は「この  
素晴らしい井戸の贈り物に心から  
感謝しています。これからは子ど  
もたちが病気で苦しむこともあり  
ません」とうれしそうに話します。また、  
水をくむために川までの危険  
な道を長時間歩く必要もなくなり  
ました。



水をくむラビアさん。取っ手を動かすと車輪が回  
り、地下水をくみ上げる。  
© Lourino Pelembé/MSF



川の水をくむ人びと。不衛生な水の利用は病気の原因  
となる。(コンゴ)

※1 E型肝炎ウイルスに汚染された水を飲むことで  
引き起こされる水系感染症の一つ。妊婦の命を危険に  
さらし、自然流産や死産のリスクを高める。  
※2 国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR)  
※3 ヒゼンダニが皮膚に寄生して起こる皮膚疾患。  
治療や予防には清潔を保つことが求められる。

# 米国が 国際援助を止める世界

米国が国際援助資金の削減方針を打ち出してから約1年。いま何が起きているのか。国境なき医師団(MSF)の現場からお伝えます。



医療施設の閉鎖や業務停止が相次ぐアフガニスタン。MSFが支援する小児救急外来でも患児が増加している。

© Alexandre Marcou/MSF

米国による2024年の政府開発援助は世界最大の633億ドル(約9.5兆円)\*。しかし、2025年に入って削減方針に転じ、今年も予算縮小が続く見通しです。また、この間、英国やフランスなどの欧米諸国でも同様の動きが急速に拡大。各国の公的支出の下で活動する国連機関やNGOは、事業の終了や縮小、現場からの撤退に追われています。

## 援助削減に翻弄される人びと 撤退する団体の穴をMSFが埋める例も

国際援助の縮小は、MSFの活動現場にも影を落としています。多くの医療施設が閉鎖されたアフガニスタンでは、行き場をなくした人びとをMSFの施設で受け入れたことで患者数が急増。デング熱が発生したスー

ダンでも、撤退した団体に代わって病院を支援しています。加えて、産科医療や感染症対策、予防接種への影響も各地で表面化しています。

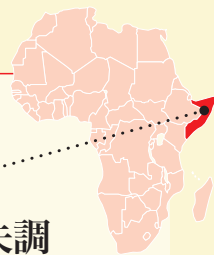
皆さまのご寄付のおかげで、MSFはいつも活動を継続できています。患者数の増加にもできる限り対応してきました。一方、現場の状況はさらに悪化しています。今後もMSFは現場から続報を発信していきます。皆さまの一層のご支援をお願いいたします。

「国際援助の削減」の最新情報はこちら



\*外務省(2025)「2024年におけるDAC諸国の政府開発援助(ODA)実績(暫定値)」

## 活動現場から



## ソマリアで急増する子どもの栄養失調

ソマリアでは、米国の援助資金削減により、特に農村部における基礎的な医療・栄養サービスが縮小。重度栄養失調の子どもの治療に不可欠な治療用ミルクの供給も数カ月間停止しました。人びとは治療を求めて遠出を余儀なくされ、MSFが支援する栄養治療プログラムでも患者数が急増。バイドアのベイ地域病院の場合、前年同期比の増加率は入院栄養治療センターで約67%、外来では約44%に上ります\*。ニーズは今後も拡大する見込みです。

治療用ミルクの補給を受ける子ども。ようやく病院にたどり着いた子の多くが重篤な状態にある。



© Hareth Mohammed/MSF

\*2024年と2025年、最初の9カ月の患者数を比較。



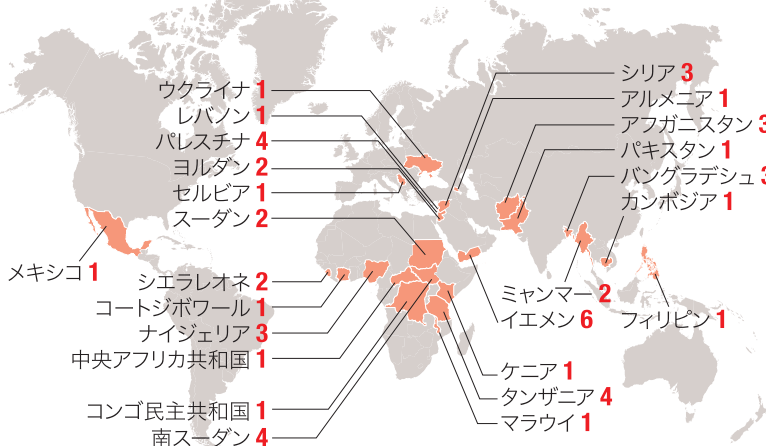
## 今号の感想を教えてください

今号の内容はいかがでしたか? ぜひアンケートで皆さまの感想を聞かせてください。締め切りは2026年5月31日(日)です。



スマートフォンから

## 日本からのスタッフ派遣状況 25の国と地域51人(2026年2月3日現在)



## MSF連絡帳

### おうちのご不用品が寄付に

切手や本、CD/DVD、カメラ、貴金属などご家庭で使わなくなったお品物の買い取りサービスを通じて、MSFに寄付いただけます。多くの方からご好評の声をいただいています。

詳しくはこちら



### 住所変更は便利なマイページで

新生活の始まる季節。お引越しの際は、ぜひ国境なき医師団ウェブサイトの「マイページ」から住所変更のお手続きをお願いします。本ページ下部の二次元コードからアクセスしていただけます。



© Ayano Kinoshita

ニュースレター **ACT!** 2026年4月号

発行元 特定非営利活動法人 国境なき医師団日本 〒162-0045 東京都新宿区馬場下町 1-1 FORECAST早稲田FIRST3 階

寄付・ご登録情報に関するお問い合わせ

TEL 0120-999-199 通話料無料

平日9:00~18:00 土日祝日・年末年始休業

\*ご住所など、ご登録の情報についての変更や、「毎月の寄付」の変更は上記までご連絡いただくか、マイページでお手続きください。

\*2026年2月の情報を基にしています。最新の情報は国境なき医師団ウェブサイトをご覧ください。



マイページはこちら

遺贈に関するご相談・お問い合わせ

TEL 03-5286-6430 担当者直通

平日10:00~17:00 / 担当: 荻野、今尾、小芝

国境なき医師団ウェブサイト [www.msf.or.jp](http://www.msf.or.jp)

